ライズ通信

第５号
２００５年　３月発行

NPO法人 リヴォルヴ 学校教育研究所

二の宮事務所
〒305-0051　つくば市二の宮４－８－３　１－４０４
電話/FAX　０２９（８５６）８１４３

ライズ学園　谷田部教室
〒305-0861　つくば市谷田部２９８３（アラキヤさん2階）
電話/FAX　０２９（８３６）８４４７
E-mail　npo_rise@ybb.ne.jp
ホームページ　http://www.rise.gr.jp

子ども達に教えられること

2005年春、今年は５人の子ども達がライズ学園を巣立っていく。大学や高校に、進む道もそれぞれだ。その中の一人のＴ君は、ぶっきらぼうで、何かというと狭いライズ学園の教室の中で棒を振り回していた。

雪の筑波山で

２月のある日、筑波山に雪遊びをしに行こうということになった。市営駐車場から歩き始めたが、一人の女の子が「疲れた。やっぱり行かない」と言い始めた。

先頭を歩いていた子ども達はケーブルカーを一本見送ったが、それでも来ない。「しかたない。先に行こう」と言ったときに、二人のスタッフが坂道を駆け上がってきた。

「Ｃちゃん達は下で待っているそうです」

「Ｔ君も？」

「ええ、よくわからないんですけど…」

Ｔ君は朝から楽しみにしていたのにと思いながら、ケーブルカーに飛び込んだ。

頂上駅を降りると、一面雪景色。しばらく雪遊びを楽しんで下山。するとそこにはさえない顔をしたＴ君達。

「おみやげだよ」と言って袋に詰めた雪を差し出すと、プイッと横を向く。盛り上がる帰りの車中ではイヤフォンをつけて、一人音楽を聴き始めた。

あとでわかったことだが、Ｔ君はＣちゃんを「せっかくきたんだから、一緒に行こう」と誘っていたらしい。それがうまく伝わらずに、スタッフはＴ君も行かないと早とちりしてしまったのだ。

翌日の朝の会、彼はテーブルに突っ伏せていた。しかし「実は、昨日の登山のことだけど…」と話を進めると、顔を少しずつもたげた。

「君の気持ちに気がつかないでしまってごめんね。帰りの車の中で君がどんな気持ちでいたか。本当はオレだって行きたかったんだ。そう言いたかったと思うんだ。だけど君はそれを言わなかった。みんなにも彼の気持ちを考えてほしいんだ」

その後、みんなのＴ君に対する見方が大きく変わった。「やっぱり行かない」と言った女の子は、Ｔ君と大の仲良しになった。

裏面に続く→

好評でした　学会発表

2004年8月27日(金)～28日(土)の２日間、東京都吉祥寺、成蹊大学にて「日本ＬＤ学会第13回大会」が開催されました。当日は、ライズ学園スタッフ、盛弓子、北村直子、平井理心、坂尻千恵、小野村哲の５名が参加。これまでの実践研究に基づき、書字に困難を示す子ども達への指導法についてポスター発表を行いました。

会場は、用意した資料があっという間になくなるほどの盛況。同じ部屋で発表をしていたグループの中でも最も多くの人々の耳目を集めました。　（文：盛　弓子）

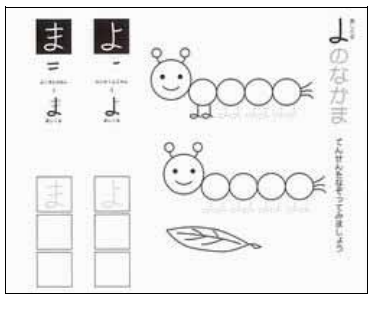
NEW

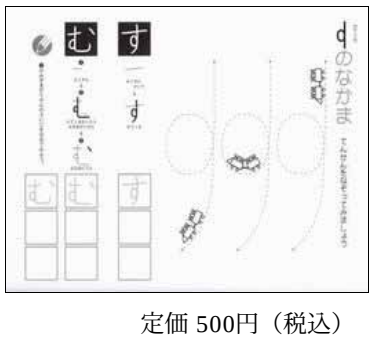
もじのかたちをとらえるための

「ひらがなれんしゅうちょう」も好評発売

独自の指導方法に基づく「ひらがなれんしゅうちょう」が完成いたしました。本書は、試供品をお使いいただいた皆さんの声を参考にし、改良を重ね作成したものです。書くことが苦手な子ども達だけでなく、多くの子ども達の練習にお役立ていただけます。

ご希望の方は、「住所・氏名・電話番号・希望冊数」を明記の上、e-mail、ファックスまたは葉書にて、いばらきマナビィ・ネット事務局（NPO法人　リヴォルヴ学校教育研究所内）までお申し込みください。





定価 500円（税込）

・詳細は **http://www.rise.gr.jp** でも紹介しています。

地域で支える子ども達の豊かな学び

いばらきマナビィー・ネット

「いばらきマナビィ・ネット」では、2003・2004年度文部科学省委嘱「NPO等と学校教育との連携の在り方についての実践研究」に参加し、2年間で延べ223名のゲスト・ティーチャー(GT)学校訪問をお手伝いさせていただきました。

パーソナルカラー診断をするＧＴと生徒

また、インターネット上に「学びの地域ポータルサイト：いばらきマナビィ・ネット」を立ち上げ、協同授業の様子や、社会で活躍する人々にインタビューし、仕事や活動の様子だけでなく、その“人”の生き方を紹介するなどしています。

県教育庁義務教育課の主催で行われた研究推進委員会では、各校から「地域の人々とのふれあいは、子ども達の学びを豊かにし、学習意欲の向上につながった」「コーディネーターの存在は不可欠。授業評価が教師の意識向上にもつながった」などの報告があり、今後このような活動を継続するために、地域・学校・教育委員会の連携を図る必要があることが確認されました。

※授業の様子は、
http://www.manabee-net.org でもご覧いただけます。

〈H16年度　ゲスト・ティーチャー訪問状況〉

	訪問日	分野・内容	学校種別
1	5/26	図工　クロッキー（身近な題材を使って線を描く）	小学校
2	7/27　8/3	理科　おもしろ実験（木炭電池、炭酸ロケット）	小学校
3	7/28　8/4	理科　おもしろ実験（身のまわりの放射線を測ろう）	小学校
4	9/16　9/30	音楽　ギターの指導・アドバイス	中学校
5	9/27～	選択家庭　パッチワークの技法を身につけよう　計5回	中学校
6	9/28	音楽　ボイストレーニングと合唱指導	中学校
7	9/29	総合　働く人の話を聴こう　［医療関係者］	中学校
8	9/29	総合　働く人の話を聴こう　［会社員］	中学校
9	9/29	総合　働く人の話を聴こう　［職人］	中学校
10	9/30	選択家庭　私らしい服装計画	中学校
11	10/4～	選択美術　カリグラフィーでカードをつくろう　計5回	中学校
12	10/7	美術　「色」から心に働きかける効果を学ぶ	中学校
13	10/7	家庭　消費者教育	中学校
14	10/8	生活　いい音さがして・こどもまつり	小学校
15	10/21	総合　働く人の話を聴こう　［美容師］	中学校
16	10/26	生活　ネイチャーゲーム	小学校
17	10/28	生活　ネイチャークラフト	小学校
18	10/29	社会　土地のつくりと変化（地層のでき方、化石等）	小学校
19	10/29.12/10	選択家庭・美術　草木染めを楽しもう	中学校
20	11/1	体育　跳び箱・マット・平均台の指導　（1年）	小学校
21	11/1	体育　跳び箱・マット・平均台の指導　（2年）	小学校
22	11/1	体育　フォークダンスの指導	小学校
23	11/1	総合　様々な職業の話を聴く　［プロサッカー選手］	小学校
24	11/1	総合　様々な職業の話を聴く　［パティシエ］	小学校
25	11/2	音楽　日本の音楽（琴の基本的な奏法）	中学校
26	11/4	総合　異国の文化や生活（外国の人に話を聞こう）	小学校
27	11/9	道徳　車いすバスケット体験学習	中学校
28	11/10	理科　原子力について学ぼう	中学校
29	11/15	英語　外国の学校事情・文化について	中学校
30	11/29.12/10	体育　逆上がりの指導	小学校
31	11/30	総合　予防接種の大切さと取り組みについて	小学校
32	12/7	体育　柔軟な体つくり	小学校
33	12/8	体育　跳び箱・マット指導	小学校
34	12/10	体育　生活習慣病について	小学校
35	12/10.17	選択音楽　ギターを楽しもう	中学校
36	12/10.17	選択音楽　お琴を楽しもう	中学校
37	12/15	英語　英語の歌やゲーム、会話	小学校
38	2005 1/21	体育　薬物乱用防止について	小学校
39	1/27	音楽　身体を使ったリズム打ちや動作を取り入れた歌	小学校
40	2/2	国語　盲導犬の役割・アイマスク体験	小学校
41	2/3	理科　科学おもしろ実験（磁石と電球をつかった工作）	小学校
42	2/16	社会　世界の子どもの暮らし（タイ）	小学校
43	2/16	社会　世界の平和と日本の役割	小学校
44	2/16	道徳　夢の実現（冒険家関口氏講演）	中学校
45	2/17	国語　いろいろなジャンケンについて話し合おう	小学校
46	3/14	選択技術　ひょうたんを使ったムードランプの制作	中学校

ライズ学園日記から ～農作業編～

ライズ学園では一昨年から教室１つ分ほどの広さの畑を借りて、さまざまな農作物を育ててきました。今年度は、筑波大学で農業について学んでいる安島さん･佐藤さんをボランティアスタッフとして迎え本格的に農業に取り組みました。

2004年８月

収穫したトウモロコシで焼トウモロコシを作りました。大きかったり小さかったりとかたちは不揃いでしたが、自分達で収穫したトウモロコシの味は格別？

2004年10月

番外編になりますが、こちらは自然生クラブさんの稲刈りに参加したときのもの。

さわやかな秋空の下、ライズ学園３人娘の笑顔が輝いていました。

2004年10月

さつま芋収穫の様子です。ツタをたぐり寄せながら掘りおこす作業は、なんだか宝探しみたい。収穫したさつま芋は、後日行われたやきいも大会でおいしくいただきました。

2004年12月

９月に種をまいた聖護院大根の収穫。手間をかけて育てたおかげでこんなに大きくなりました。収穫した大根はおでんの具と大根飯のおにぎりとなりました。

ライズ学園日記はこちらからhttp://www.rise.gr.jp

畑の時間

筑波大学生物資源学類４年　安島　千穂

昨年5月から畑の時間を頂き、肥料づくり、種まき、管理作業、収穫と一通りの農業体験を同級生の佐藤哲郎君の協力を得ながら子ども達と共に経験してきました。

種まきや苗を育てる段階では、まだ畑作業の実感を得られていないようでしたが、回数を重ねるにつれて段々と興味を示してくれているように思います。ミニトマトの収穫では我先にと赤い実に手を伸ばし、収穫のタイミングをなかなか測れず肥大してしまったナスに驚く様子は畑ならではの光景です。トウモロコシの収穫は時期を逃してしまったためにしわしわのトウモロコシを食べることになってしまいました。「おいしくない！」という声が多くあがりましたが、当りをつかんだ子は「普通に売っているのよりおいしいかも！」と喜んでくれました。サツマイモ掘りは今までの作業の中で一番楽しんでもらえたのではないかと思います。土の中の宝物を掘り当てる感覚がよかったのでしょうか。「あった！あった！」「すごい！すごい！大きいよこれ！！」という声がそこかしこから聞こえ、にぎやかでした。

収穫物を得る喜びはもちろんのことですが、畑作業で私が一番よかったと思うことは、みんなの外ではしゃぐ姿を見ることが出来たことです。トンボを追いかけまわす姿、虫を怖がってスタッフに抱きつく仕草、雑草に興味を示す瞳、とても新鮮です。さらに協力することがみんなとても上手で、作業中にもそれは発揮されます。こちらが作業内容を示すと、おのずと役割分担がされていきます。畑作業では分担しなければはかどらない内容がたくさんありますから、みんながこれからどんどん協力上手になってくれるといいなと思います。

農業体験をしてもらいたいと考えた当初の目的は、自分達が食べているものがどのようにつくられているのか、また、作物はどのように育つのかを知ってもらい、食に興味を持ってもらおうということでした。しかし、今は何より土に触れて欲しい、楽しく作業をしてほしいという目的に変わりつつあります。できるだけ多様な種類の作物を育て、その形の違いや作業の違いを楽しんでもらいたいと思います。作物とはどんなものなのか、食べ物はどうして得られるのかは後からゆっくり気づいてくれたらいい、と思っています。

スタッフのつぼやき

保護者会担当スタッフ　鈴木　桂子

人は一人では生きられないんだと痛感します。孤立していることほど辛く、悲しいことはありません。不安の中で自分なりに一生懸命考え選んで生きてきたはずなのにうまくいかないことはいっぱいあります。『今』生かされている自分の存在を、丸ごとO.K.と認められることを求めています。支える側も支えられ側も!!　絶対に正しい選択なんてどこにあるのでしょう。試行錯誤しながら恐る恐る一歩を踏み出し、一歩が出せた自分を認め、他者から認められる中で変化（成長）してゆきます。人生の中の出会いは偶然ではなく必然なのです。『今』出会えたから気づけたのです。省みることは必要です。でも後悔することはないと思います。他人と過去は変えられない。でも自分と未来は変えられるのです。一人一人自分らしく自分の人生を生きる素晴らしい可能性を信じて…。

保護者会は毎月第２金曜日午後１時半～３時　場所ライズ学園 応接室にて

表面から続く→

夏の畑で

昨年は夏野菜が大豊作だった。トマトは真っ赤な実をたわわに実らせ、なすの藍色はまるで宝石のように夏の日差しに輝いていた。

ある日、いつものように農作業を終えて、水を借りているお宅にかまやくわを洗いに行った。入り口には愛嬌のいい番犬。しかし犬が苦手な小学生のMちゃんは、なかなか庭に入ることができない。するとその後ろからやってきたK君が、

「しょうがないなぁー」と言いながら、Mちゃんを抱き上げた。

「ありがとう」とほほえむMちゃんの笑顔は、それこそ夏野菜の実のように輝いていた。

「とにかく、まあ、あんな子は見たことないですよ」

K君が通っていた小学校の校長は、彼がいかに難しい子であったかを繰り返した。彼は大暴れをしたあげく、「こんな学校、二度と来るもんか」と捨てぜりふを吐いて、飛び出していったという。

たしかに当初は、自己中心的な言動が目立った。目を引きたいがために、スタッフの背中を思い切り叩いたりもした。しかしそんな彼が、

「ほんとうは、すごくやさしいんだね」というスタッフの言葉に、

「ここに通い始めた頃のぼくは、（自分の感情をどう表現したらいいかがわからなくて）、やさしさをあだで返していた」と自分を振り返ったという。

大人こそゆとりを

短所をあげ連ねるよりも、長所を伸ばすように努めることが大切であることは、誰もが頭では理解している。しかし実際にはそれがなかなか難しい。教員時代に私は、「クラスの子ども達全員の長所を言えるか」と問われたことがある。当時の私は、すぐに言葉に詰まってしまった。

大人だって、自分の心を素直に表現するのは難しい。ましてや子ども達は、大人ほどの表現力を持ち合わせない。教育問題についてさまざまな議論がなされているが、「基礎学力が低下している。だから授業時間を増やせ」というような安易な発想には、危惧を感じざるを得ない。今何よりも大切なことは、子ども達一人一人の心の声に、耳を傾けること。そしてそのゆとりを、大人達がもてるようにすることではないだろうか。　（文：小野村　哲）

秋元前副理事長を偲んで

昨年７月に、本研究所前副理事長の秋元一浩さんが急逝された。体調不良から副理事長の職を辞された後も、秋元さんにはライズ学園で高校生の物理や世界史をご指導いただいていた。奥様のお話によれば、亡くなられる前日まで、プリント作りなど授業の準備をされていたとのことだった。

式場に入り切れない程の参列者に、秋元さんのお人柄が偲ばれた。大粒の涙を流していた子ども達。最後のお別れに、棺の中の秋元さんにお花や色紙を送った。

葬儀に参列したあと、ライズ学園の雰囲気がまた少し変わった。秋元さんは最後の最後まで、子ども達に貴重な何かを伝えていってくれた。そして今でも、どこかで見守ってくださっていると、そんな気がしている。今あらためて、心からのお礼を申し上げたい。

正会員･賛助会員募集

リヴォルヴ学校教育研究所の活動は、多くの方々の善意によって支えられています。私達は今後も一層の研鑽に励み、活動を充実させてまいります。

皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

○年会費
正会員　個人　5,000円　団体 10,000円
学生個人　2,500円
賛助会員　個人1口 3,000円
団体1口　5,000円

○会費の振り込み先
郵便局　記号106000　35657951
特定非営利活動法人ﾘｳﾞｫﾙｳﾞ学校教育研究所

常陽銀行研究学園都市支店
店番104　普通1822778
特定非営利活動法人ﾘｳﾞｫﾙｳﾞ学校教育研究所
理事長　小野村　哲（ｵﾉﾑﾗ ｻﾄｼ）

編集後記

すでにふれたが、今年は５人の子ども達が巣立っていく。その中の３人は、最初に入園してきた子ども達だ。ライズ学園のような学びの場については、子ども達をかえって社会から切り離してしまうという批判もある。しかしだからといって、学校に行かずにいる子ども達をそのままにできるだろうか。私達はマナビィ・ネットの活動を通じて、既存の学校をより魅力的なものとする努力も重ねている。

今はただ、どうか素晴らしい出会いに恵まれますようにと、５人の子ども達の幸運を祈るばかりだ。　（文：北村　直子）